YAMAHA

携帯発電機

取扱説明書

EF7H
EF9H

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルを
お読みになり、内容を理解してからお使いください。

331191
7XC-F8199-01

おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警　告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

目次

おねがい .....表紙裏（表2）
本体識別番号 P1
お客様ご相談窓口のご案内 P2
安全にお使いいただくために P3
- ⚠ 警告 P3
- ⚠ 注意 P4
- 環境への配慮 P4

重要ラベル P5
- ⚠ 警告ラベル P5
- ⚠ 注意ラベル P6
- その他ラベル .....P6〜8

各部の名称 .....P9〜12
各部の取り扱い P13
- オイル警告装置 P13
- エンジンスイッチ P13
- 交流プロテクタ P14
- 直流プロテクタ P14
- 燃料コック P15
- チョークレバー P15
- リコイルスタータハンドル P16
- 携帯工具 P16
- アース端子 P16

給油 P17
- 燃料（無鉛ガソリン）の給油 P17
- エンジンオイルの給油 P18

正しい運転操作 P19
- エンジンの始動（リコイル始動の場合） P19
- エンジンの停止 P21
- 交流電源の取りだし方 P21
- 直流電源の取りだし方 P22
- バッテリ充電の際の厳守事項 P23
- 直流電源の使用可能範囲 P23
- 交流電源の使用可能範囲 P24, 25

始業点検 P27
- 燃料（無鉛ガソリン）の点検 P27
- エンジンオイルの点検 P28
- その他の点検 P28

点検 P29
- 始業点検 P29
- 定期点検 P29
- 始業点検項目 P30
- 6ヶ月毎点検項目 P30
- 12ヶ月毎点検項目 P30

定期運転・定期交換 P31
- 定期運転 P31
- 定期交換 P31

定期点検・整備ご相談窓口のご案内 P32
やさしい点検・調整 P33
- エンジンオイルの交換 P33
- スパークプラグの点検と清掃 P35
- エアクリーナエレメントの清掃 P37
- 燃料タンクフィルタの清掃 P39
- フューエルストレーナの清掃 P40

故障診断 P41, 42
- エンジンが始動しない P41, 42
- 電気が出ない P41, 42

運搬 P43
保管・格納 P45
- 保管 P45
- 格納 P47

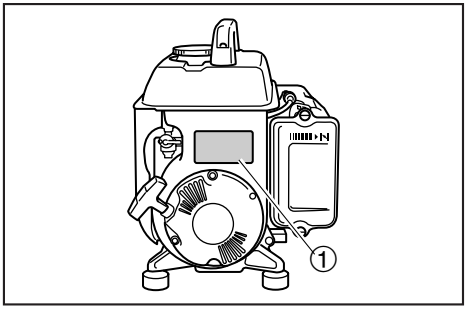
仕様諸元 P49, 50
索引 .....巻末（表3）

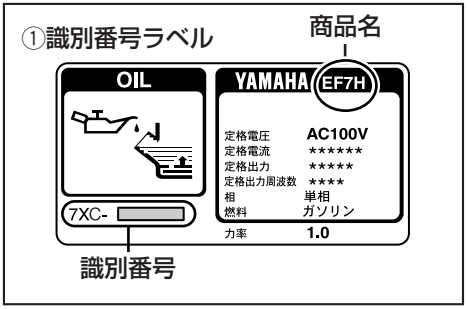
本体識別番号

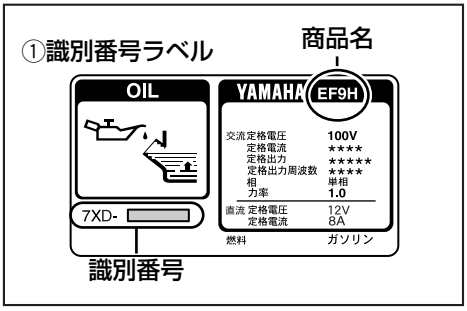
● 本体識別番号

商品名、本体識別番号（識別番号ラベル①）等は問い合わせや部品を注文するときのために記入してください。

万一の盗難時のために商品名、識別番号は他の資料にも記録しておいてください。







商　品　名

識 別 番 号

7XC-

7XD-

購入年月日

年　　月　　日

電話

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

ヤマハ モーターパワープロダクツ㈱
パワープロダクツ事業部　マーケティング部　サービス課
〒436-0085　静岡県掛川市成滝322-1　☎0537(21)0953

【ご注意】

- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくためにお守りください。

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所等の排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中や使用直後はマフラ部が熱いのでマフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から１メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠注 意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。

⚠注 意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

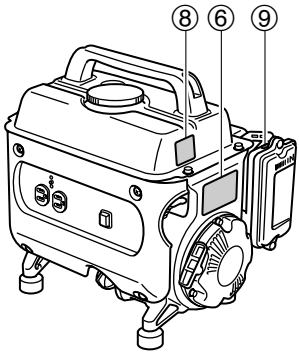
将来、廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

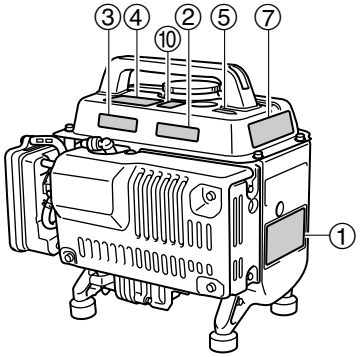
重要ラベル

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

- ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。





⚠警　告 ラベル

①

⚠ 警　告

火気厳禁

火災や爆発のおそれあり
- 給油中はエンジン停止のこと。
- ガソリン給油口に火気を近づけないこと。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
- 燃料は赤レベル（規定量）以上入れないこと。
- 可燃物のそばで使用しないこと。
- 建物・設備に排気を向けないこと。

排気ガス中毒のおそれあり
- 屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
- 人・建物・設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
- 電力会社からの電気配線に接続しないこと。

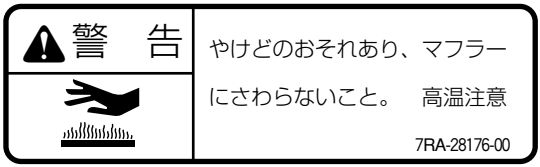
感電のおそれあり
- 雨や雪の中で使用しないこと。
- コンセントに濡れた手でさわらないこと。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

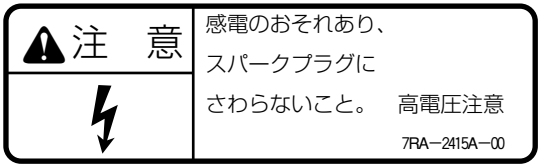
7TA-24162-01

②



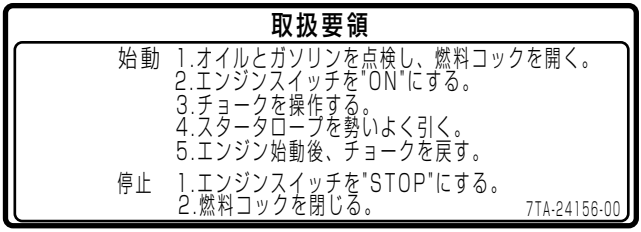
⚠注　意 ラベル

③



その他ラベル

④取扱要領



⑤

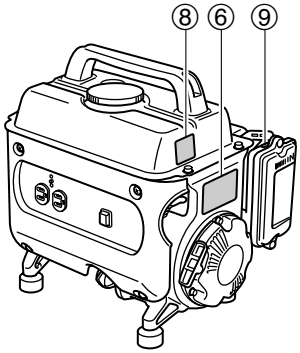
⑥識別番号ラベル（P１参照）

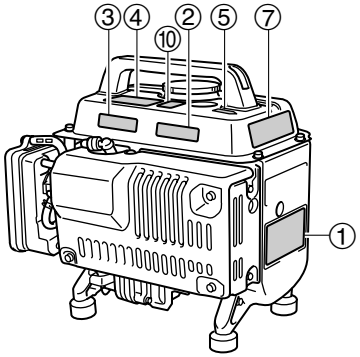
重要ラベル（つづき）

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

- ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。





⑦長期保管

長期保管

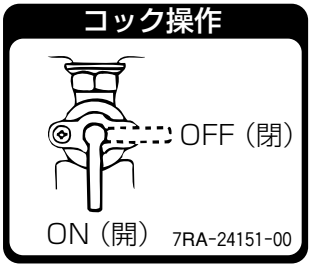
長期間 (3ヶ月以上) 使用しない場合は以下の手入れを実施してください。
燃料は自然劣化します。実施しないとエンジンが始動しない場合があります。

1.燃料タンク内の燃料を完全に抜いてください。
2.キャブレターのドレンスクリュウを弛め燃料を抜いてください。
3.室内の湿気の少ない換気の良い場所に保管してください。

7TA-24164-00

その他ラベル

⑧コック操作



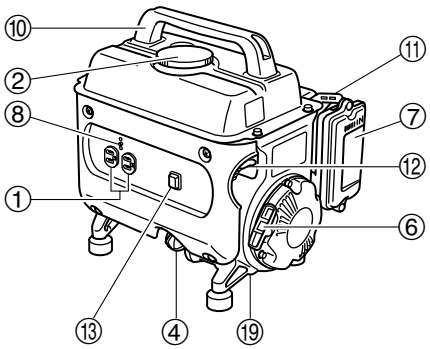
⑨チョークレバー

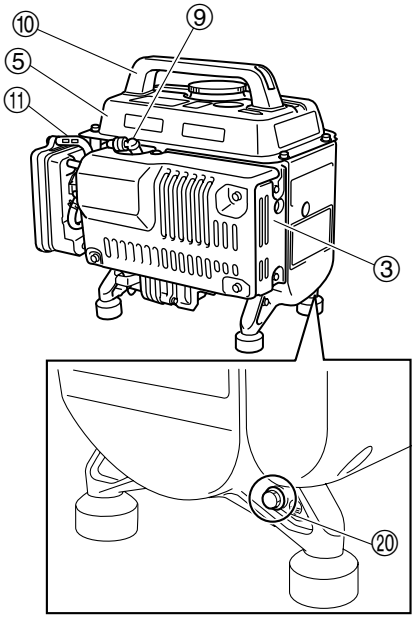
7TA-24155-00

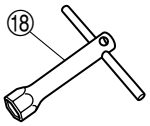
⑩「LEMA」ラベル
（「排出ガス」自主規制適合マーク）

JT0-2111F-00

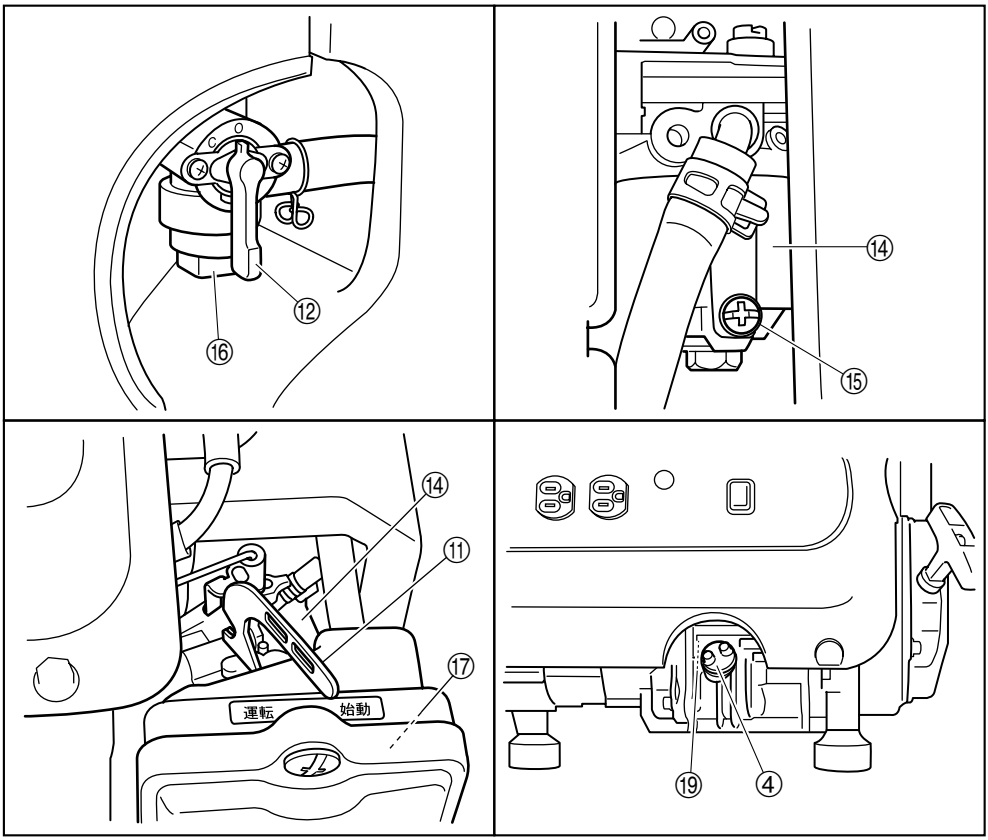
各部の名称（EF7H）



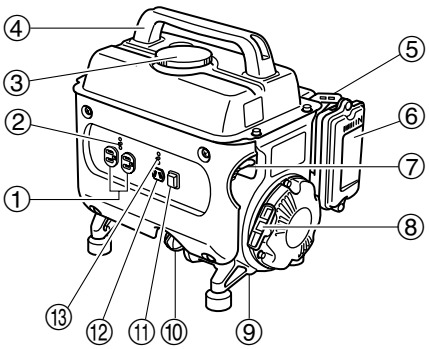


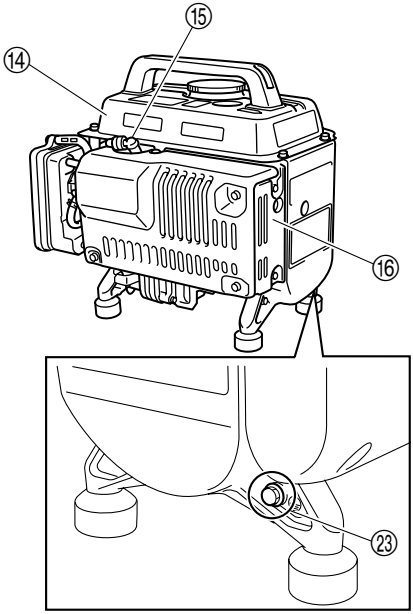


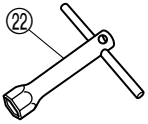
①交流コンセント
②燃料タンクキャップ
③マフラ
④オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑤燃料タンク
⑥リコイルスタータハンドル
⑦エアクリーナ
⑧交流プロテクタ
（過電流保護装置）
⑨スパークプラグ/
（点火プラグ）
スパークプラグキャップ
（点火プラグキャップ）
⑩ハンドル（取手）
⑪チョークレバー
⑫燃料コック
⑬エンジンスイッチ
⑭キャブレタ
⑮ドレンスクリュ
⑯ストレーナカップ
⑰エアクリーナエレメント（エアクリーナ内）
⑱スパークプラグレンチ
⑲オイル警告装置
⑳アース端子


⑫
⑯
⑭
⑮
⑭
⑪
⑰
運転
始動
⑲
④

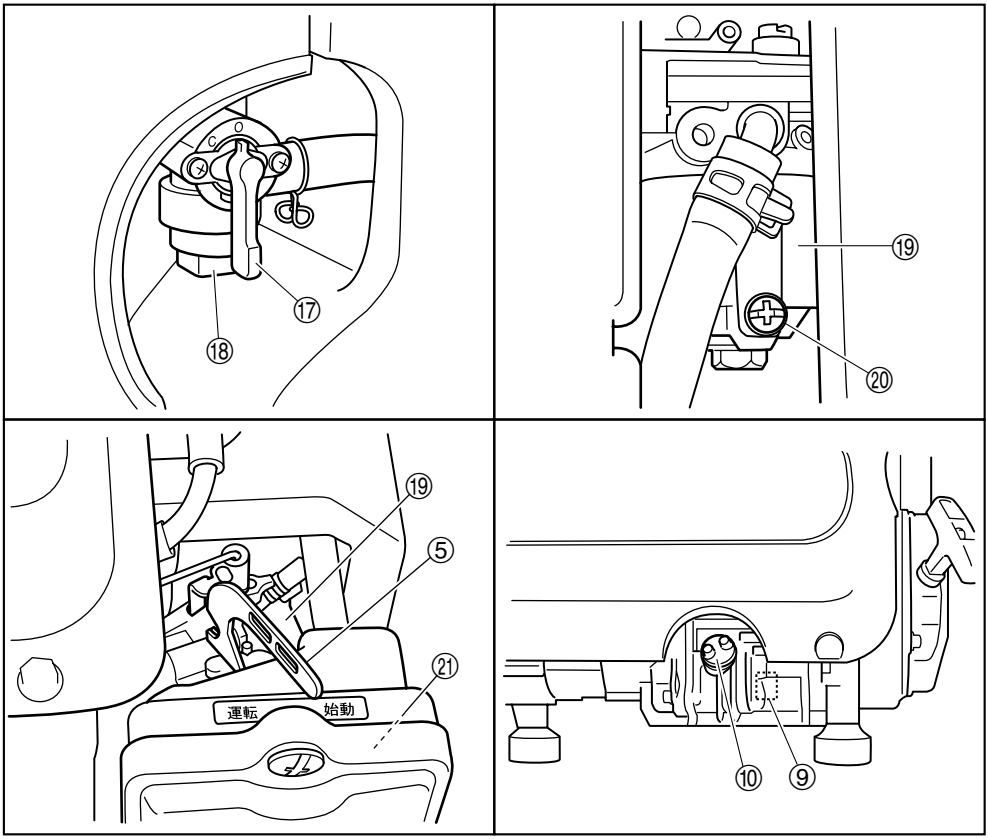
各部の名称（EF9H）







①交流コンセント
②交流プロテクタ
（過電流保護装置）
③燃料タンクキャップ
④ハンドル（取手）
⑤チョークレバー
⑥エアクリーナ
⑦燃料コック
⑧リコイルスタータハンドル
⑨オイル警告装置
⑩オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑪エンジンスイッチ
⑫直流コンセント
⑬直流プロテクタ
⑭燃料タンク
⑮スパークプラグ/
（点火プラグ）
スパークプラグキャップ
（点火プラグキャップ）
⑯マフラ
⑰燃料コックレバー
⑱ストレーナカップ
⑲キャブレタ
⑳ドレンスクリュ
㉑エアクリーナエレメント（エアクリーナ内）
㉒スパークプラグレンチ
㉓アース端子


⑰
⑱
⑲
⑳
⑲
⑤
㉑
運転
始動
⑩
⑨

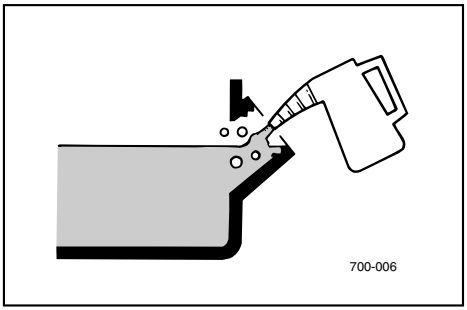
各部の取り扱い

● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。

エンジンオイル量を確認しヤマハ 4 サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。



要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● エンジンスイッチ

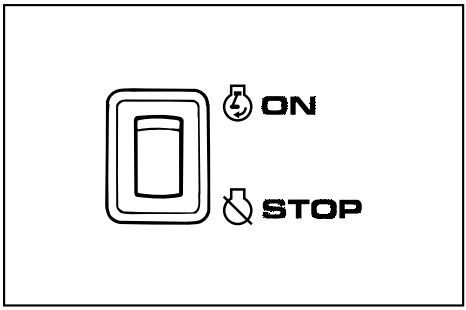
点火系統を制御しエンジンの運転、停止を行ないます。

STOP（停止）

エンジン停止および保管時の位置です。

ON（運転）

エンジン運転時の位置です。



- **交流プロテクタ（過電流保護装置）**

ON（入）　交流が取り出せます。
（通常はこの位置になっています。）

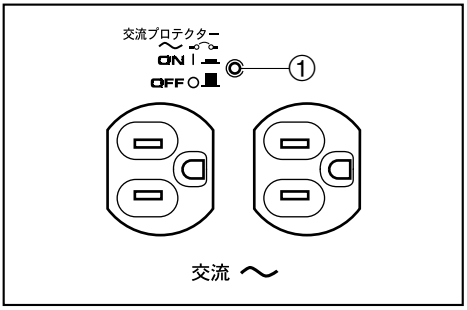
OFF（切）　交流が取り出せません。

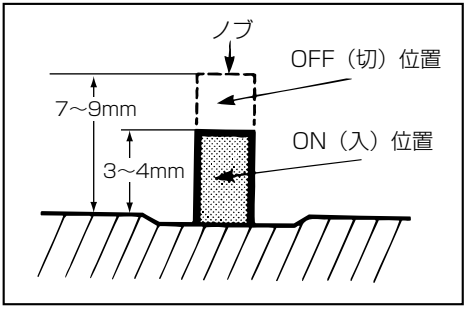
⚠注　意

- **交流プロテクタ①がON（入）のときはノブを押さないでください。**
- **交流プロテクタ①がOFF（切）になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はヤマハ販売店に相談してください。**

要　点

- 電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的にOFF（切）になります。再度使用する場合はノブを押し込んでON（入）にしてください。





- **直流プロテクタ（過電流保護装置）(EF9H)**

ON（入）　直流が取り出せます。
（通常はこの位置になっています。）

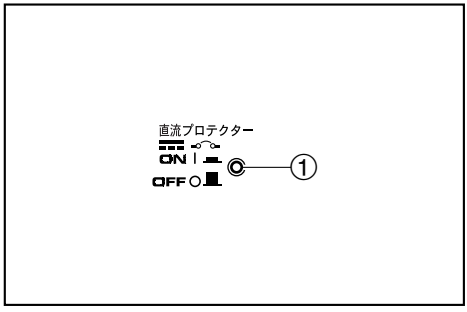
OFF（切）　直流が取り出せません。

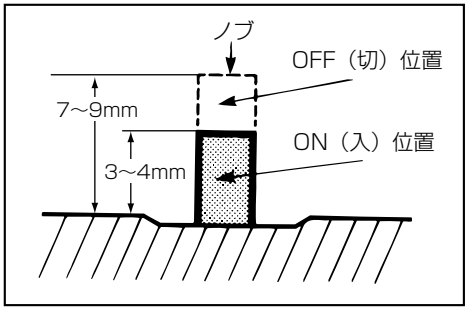
⚠注　意

- **直流プロテクタ①がON（入）のときはノブを押さないでください。**
- **直流プロテクタ①がOFF（切）になる場合は、バッテリ容量・放電状態を発電機の指定バッテリ容量以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はヤマハ販売店に相談してください。**

要　点

- 12Vバッテリ充電中に定格以上の電流が流れると自動的にOFF（切）になります。再度使用する場合はノブを押し込んでON（入）にしてください。



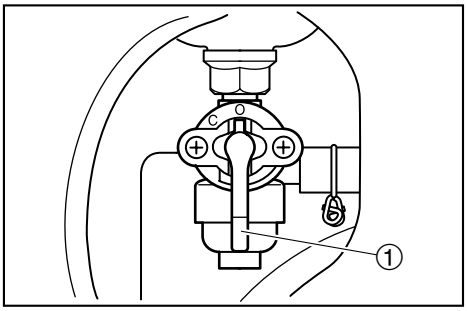


各部の取り扱い（つづき）

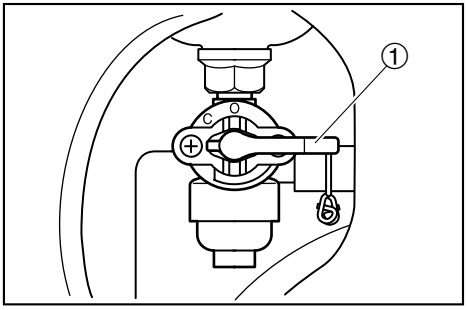
● **燃料コック**

燃料コック①は燃料の流れを制御します。

ON（開）――燃料は流れます。
始動および運転時のレバーの位置です。

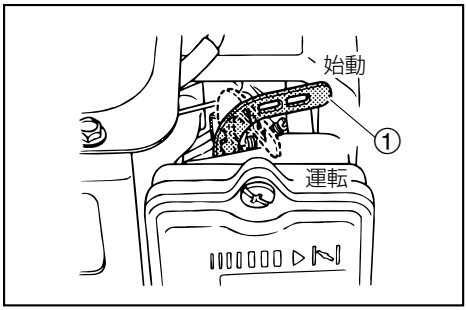


OFF（閉）――燃料は流れません。
停止および保管時のレバーの位置です。

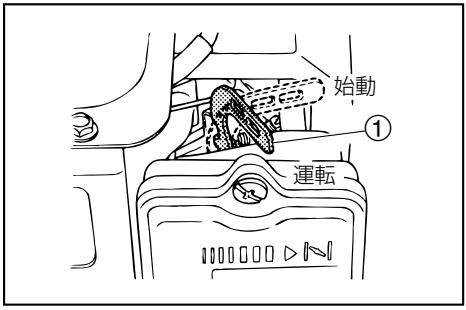


● **チョークレバー**

始動－エンジンを始動させるときのチョークレバー①の位置です。

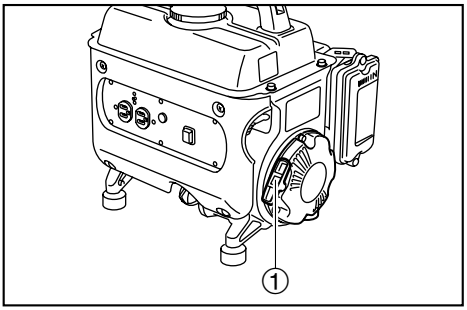


運転－エンジンを運転するときのチョークレバー①の位置です。



● **リコイルスタータハンドル**

リコイルスタータハンドル①はエンジンを始動させる時に使用します。

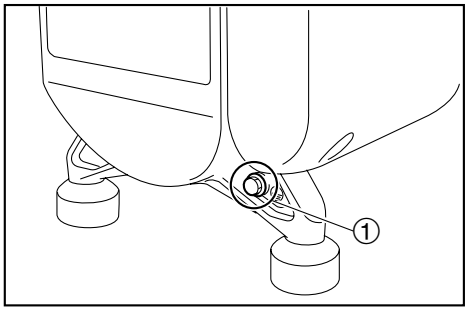


● **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

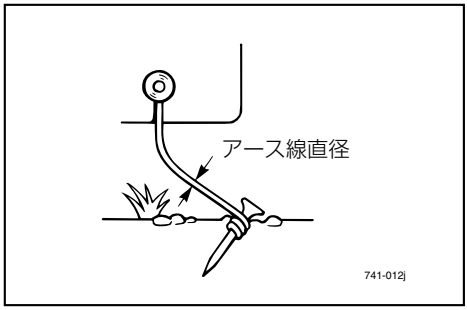
● **アース端子**

感電防止のアース線を取り付ける端子（アース線用ボルト）①です。



要　点

● アース端子①から大地にアースしてください。



アース線直径の参考

1.25mm^{2}以上

給油

● 燃料（無鉛ガソリン）の給油

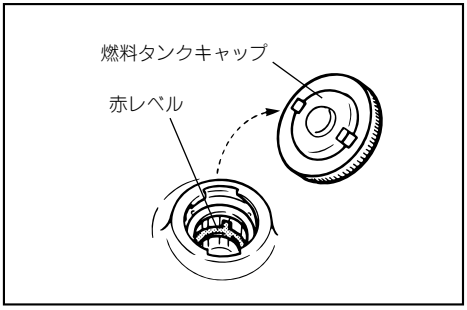
燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）を赤レベルまで給油します。

燃料タンク容量

2.7L（赤レベルまで）

使用燃料

無鉛ガソリン（自動車専用ガソリン）



⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医者の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

要　点

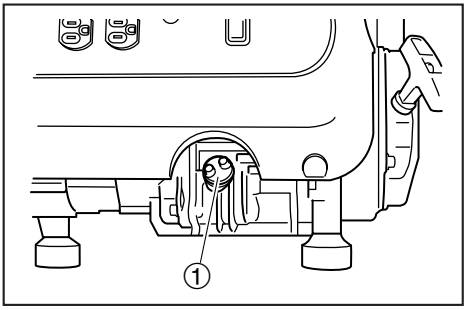
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

● **エンジンオイルの給油**

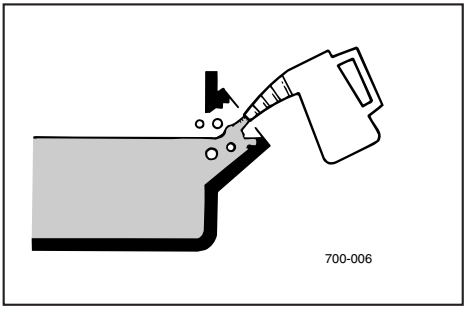
要　点

● 給油の仕方は「エンジンオイルの交換」（P33）も参照してください。

オイルプラグキャップ①を取り外します。



ヤマハ 4 サイクルエンジンオイルを注入口の口元まで規定量給油します。



エンジンオイル規定量
　430mL（430㎤）
使用オイル
　ヤマハ4サイクルエンジンオイル
　　API分類SE級エンジンオイル
　　SAE 10W-30もしくは10W-40

⚠注　意

- **工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。**
- **エンジンオイルを規定量以上に給油しますとエンジン不調になるおそれがあります。**

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

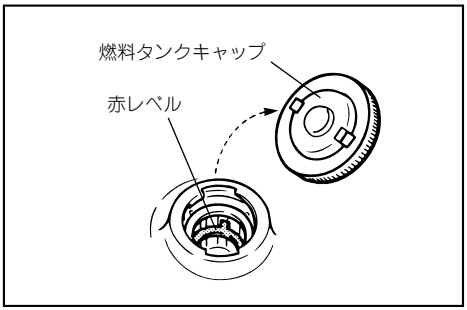
正しい運転操作

- **エンジンの始動（リコイル始動の場合）**

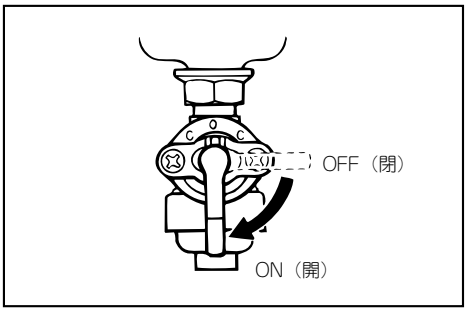
⚠注　意

- **換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。**
- **エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。**

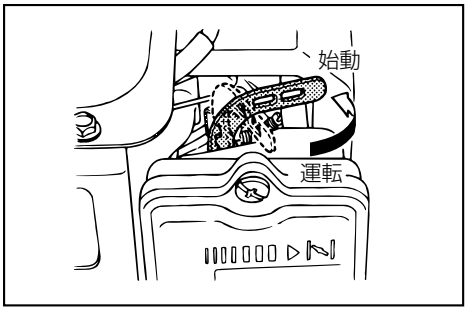
1. 燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。



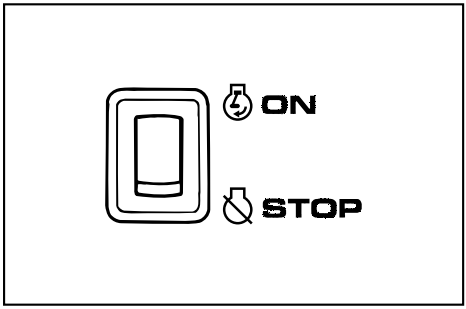
2. 燃料コックをON（開）にします。



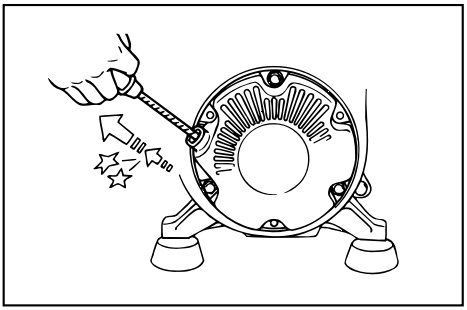
3. チョークレバーを始動にします。
なお、エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを始動にする必要はありません。



4. エンジンスイッチをON（運転）にします。



5. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。



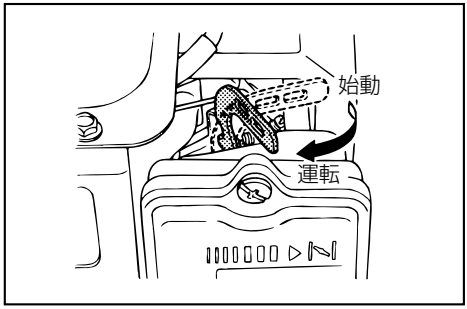
⚠注　意

- **リコイルスタータハンドルを引く時は発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。**
- **リコイルスタータハンドルを戻す時はゆっくりと戻してください。**

要　点

- リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、チョークレバーを運転にしてリコイルスタータハンドルを引いてください。

6. エンジン回転数が安定したらチョークレバーを運転にします。

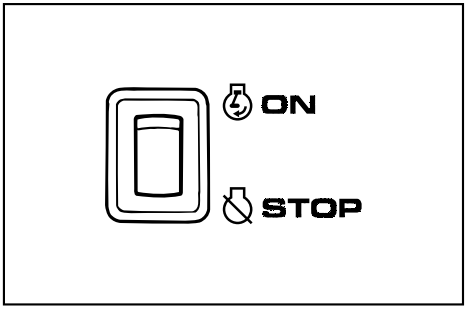


7. しばらく暖機運転します。

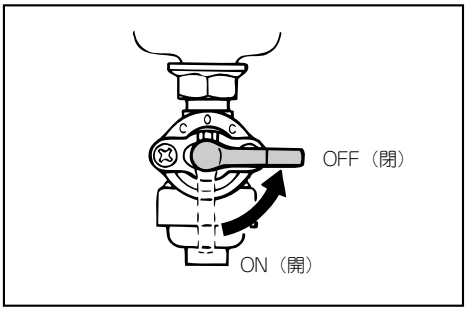
正しい運転操作（つづき）

● エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。



4. 燃料コックをOFF（閉）にします。



● 交流電源の取りだし方

▲注　意

- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**

1. エンジンを始動します。

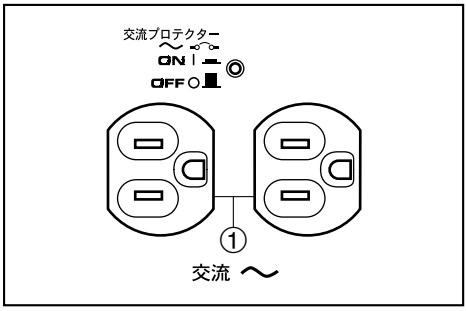
要　点

- スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

2. 電気器具のプラグを交流コンセント①に差し込みます。

EF7Hの場合
　2口合計消費電流　6.1A（50Hz），7.1A (60Hz)

EF9Hの場合
　2口合計消費電流　7A (50Hz)，8.5A (60Hz)



要　点

- 電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

- **直流電源の取りだし方（12Vバッテリ充電専用）（EF9H）**

⚠注　意

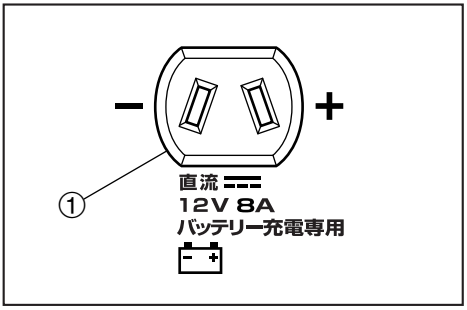
- **直流（DC）と交流（AC）を同時にとりだす場合の交流（AC）の器具の電力は次の範囲を守ってください。**
  60Hz−750Wまで
  50Hz−600Wまで
- **充電時間はバッテリ液の比重によって異なります。**

1. エンジンを始動します。

要　点

- スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

2. チャージコードアッセンブリのプラグを直流コンセント①に差し込みます。

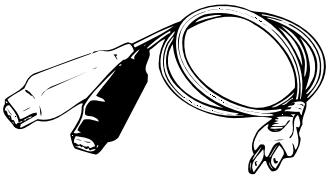


⚠注　意

- **チャージコードアッセンブリの取り外しはエンジン停止後、取り付けの逆順で行なってください。**

3. チャージコードアッセンブリの赤色端子をバッテリの⊕端子に接続します。
4. チャージコードアッセンブリの黒色端子をバッテリの⊖端子に接続します。

チャージコードアッセンブリは有料で販売しています。



チャージコードアッセンブリ
部品No. 7LG-87209-00

⚠注　意

- **満充電になるための充電時間はバッテリの種類、放電状態（比重）によって異なります。**
- **詳細は充電するバッテリの説明書を熟読してください。**

正しい運転操作（つづき）

● バッテリ充電の際の厳守事項

バッテリは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。バッテリ充電の際は次のことを厳守してください。

1. ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけると、爆発をひき起すことがあります。（火気厳禁）
2. 閉めきったところでの充電は爆発をひき起すことがあります。充電は通風のよい場所で行ってください。
3. バッテリ液（希硫酸）が、目、皮ふ、衣服につくと失明や、やけどをひき起すことがあります。取り扱いにはくれぐれもご注意ください。
   応急手当方法／皮ふや衣服についたときは、直ちに多量の水で洗う。目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、医師の治療をうける。

● 直流電源（12Vバッテリ充電専用）の使用可能範囲

当電源は40AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリを充電できるように作られていますのでこれよりも容量の小さいバッテリを充電できます。

12Vバッテリ

バッテリの補充電は、バッテリの放電状態によって充電時間が異なります。バッテリの比重が1.26～1.28になりますと充電完了となりますので、できるだけ1時間おきぐらいに比重をチェックしてください。

例えば“40AH”の小型乗用車のバッテリですと、1/2（ハーフ）放電状態から約5時間でほぼ良好な状態となります。なおバッテリ充電は、必ずバッテリの液量をチェックして行なってください。

バッテリ充電中にバッテリから負荷を取ったり、バッテリ充電中に車のセルを回すと、大電流が流れ発電機ゼネレータ部分のコイル焼けの原因となるため行なわないでください。

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取りだし可能範囲 EF7H		備　考
	50Hz	60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V 610W まで	100V 710W まで	力率＝1
電動工具類	100V 488W 程度まで	100V 570W 程度まで	力率＝0.8～0.95
汎用モータ類	100V 300W 程度まで	100V 355W 程度まで	力率＝0.4～0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取りだし可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　点

- 取りだし可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタがOFF（切）になりますので、電気器具の容量を再確認してください。

正しい運転操作（つづき）

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取りだし可能範囲		備　考
	EF9H		
	50Hz	60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V 700Wまで	100V 850Wまで	力率＝1
電動工具類	100V 560W程度まで	100V 680W程度まで	力率＝0.8～0.95
汎用モータ類	100V 340W程度まで	100V 425W程度まで	力率＝0.4～0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取りだし可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　点

- 取りだし可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタがOFF（切）になりますので、電気器具の容量を再確認してください。

● **直流電源の使用可能範囲（12Vバッテリ充電専用）**

12V-8Aまで

始業点検

● **燃料（無鉛ガソリン）の点検**

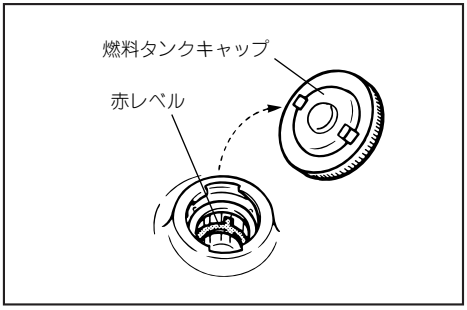
燃料タンクキャップを外して燃料（無鉛ガソリン）の残量を点検します。

燃料タンク容量

2.7L（赤レベルまで）

使用燃料

無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）



⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医者の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

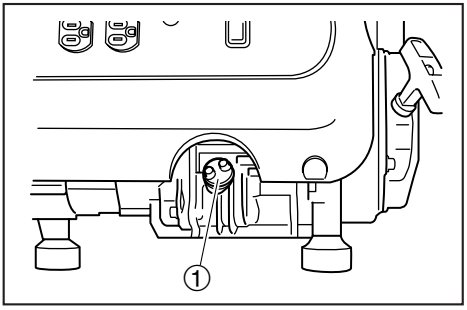
- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

要　点

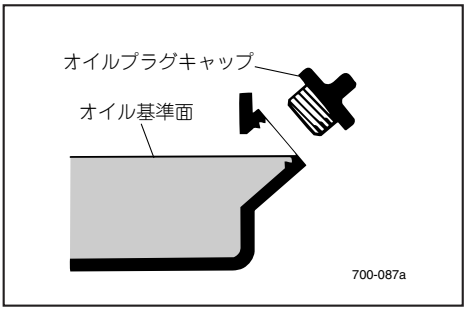
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

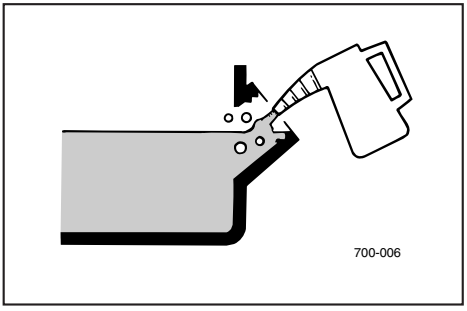
オイルプラグキャップ①を取り外します。



エンジンオイルがオイル基準面まであるか点検します。



エンジンオイルが基準面より少ない場合は、ヤマハ4サイクルエンジンオイルをオイル基準面まで給油します。



要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

● **その他の点検**

P29を参照してください。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠警　告

- **エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。火傷にご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**

⚠注　意

- **重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。**
- **異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行なってください。**

● 始業点検

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行なってください。
点検箇所に異常がある場合は、販売店で点検・整備をお受けください。

1. 燃料・エンジンオイルの量、燃料の洩れ、エンジンオイルの汚れ
2. 前回の運転で異常が認められた箇所
3. エンジンスイッチの作動具合
4. リコイルスタータの作動具合・スタータロープの損傷
5. エンジンのかかり具合および異音、排気の状態
6. コンセントの損傷

● 定期点検

お客様のお申しつけにより、お買い上げの販売店（またはヤマハ発電機サービス店）が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

- **始業点検項目**
  スタータハンドルの作動具合
  スタータロープの損傷
  エンジンのかかり具合、異音
  排気の状態
  燃料漏れ
  燃料の量
  チョークレバーの作動具合
  エンジンオイルの量、漏れ
  コンセントの機能

- **6ヶ月毎点検項目**
  スパークプラグ、電極の焼け具合
  スパークプラグ、電極の清掃
  高圧コードの損傷
  スタータハンドルの作動具合
  スタータロープの損傷
  エンジンのかかり具合、異音
  排気の状態
  エアクリーナエレメントの状態
  燃料漏れ
  チョークレバーの作動具合
  キャブレタの調整
  フュエルパイプの亀裂、損傷
  エンジンオイルの量、漏れ
  エンジンオイルの交換
  コンセントの機能
  マフラ取付部のゆるみ、損傷
  本体各部の締付
  各部の給油脂

- **12ヶ月毎点検項目**
  スパークプラグ、電極の焼け具合
  スパークプラグ、電極の清掃
  高圧コードの損傷
  スタータハンドルの作動具合
  スタータロープの損傷
  エンジンのかかり具合、異音
  排気の状態
  圧縮圧力
  エアクリーナエレメントの状態
  カーボン除去（シリンダヘッド部）
  バルブクリアランスの測定
  燃料漏れ
  チョークレバーの作動具合
  キャブレタの調整
  フュエルパイプの亀裂、損傷
  エンジンオイルの量、漏れ
  エンジンオイルの交換
  コンセントの機能
  マフラの機能
  マフラ取付部のゆるみ、損傷
  本体各部の締付
  各部の給油脂

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

- **定期運転**

  1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

  燃料をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠注　意

- **本書での指示なき作業等を行なう時にも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ販売店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、同梱のヤマハ発電機サービス店にご遠慮無くご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

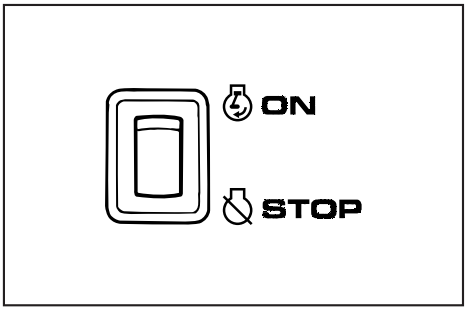
やさしい点検・調整

● **エンジンオイルの交換**

要　点

● 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。

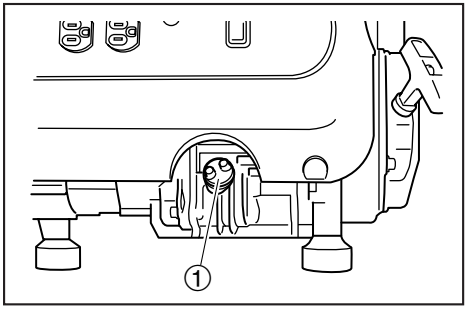
1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



⚠警　告

● **エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。**

3. オイルプラグキャップ①を外します。



要　点

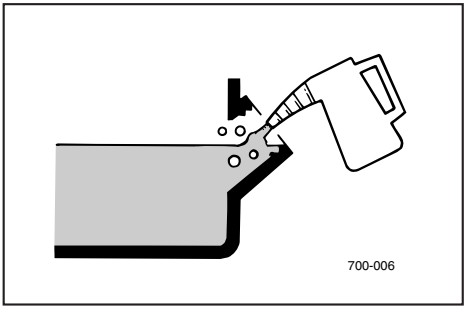
● 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。

4. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

要　点

- 初回は20時間目、その後は100時間毎に交換してください。

5. 新しいヤマハ4サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。



オイル量

430mL（430㎤）

使用オイル

ヤマハ4サイクルオイル

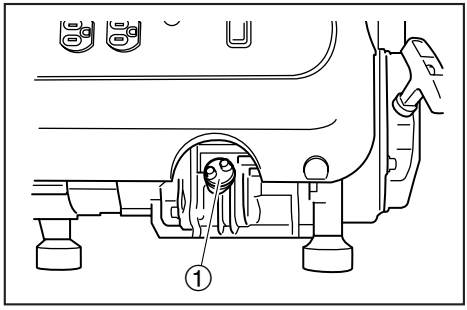
API分類SE級エンジンオイル

SAE 10W-30もしくは10W-40

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

6. オイルプラグキャップ①を締め付けます。



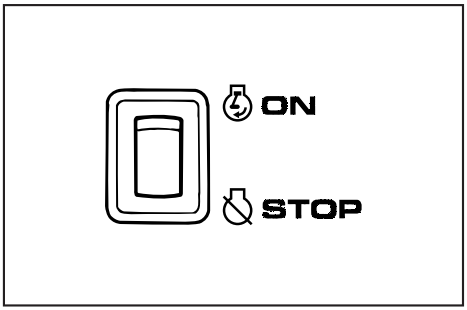
やさしい点検・調整（つづき）

● スパークプラグの点検と清掃

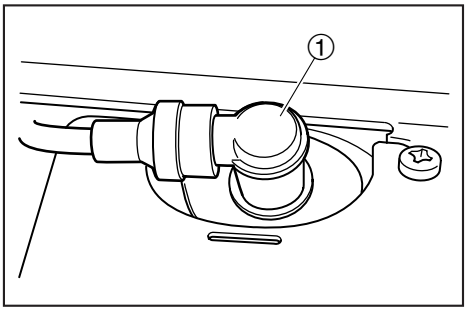
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。

スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。

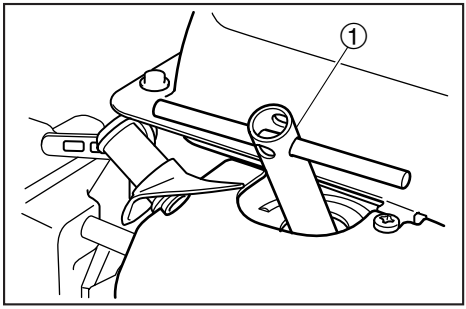
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. スパークプラグキャップ①を取り外します。



3. スパークプラグレンチ①を使って、スパークプラグを外します。

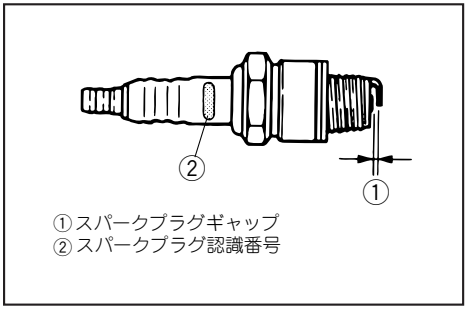


▲警　告

● スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。

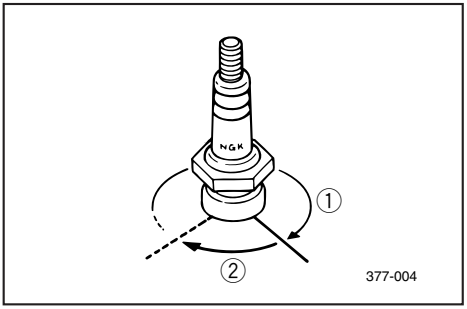
4. スパークプラグの焼け具合を見ます。通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検します。
5. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
6. スパークプラグギャップを点検します。

スパークプラグ　　NGK　BPR6HS
スパークプラグギャップ　0.6～0.7㎜



①スパークプラグギャップ
②スパークプラグ認識番号

7. スパークプラグを締め付けます。



要　点

- 新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って1／4～1／2回転②更に締め込んでください。
  できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値（15N・m～20N・m）で締めてください。

8. スパークプラグキャップを取り付けます。

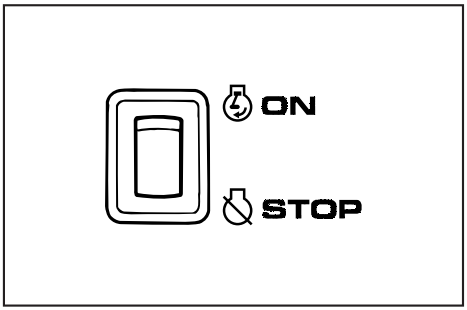
やさしい点検・調整（つづき）

● **エアクリーナエレメントの清掃**

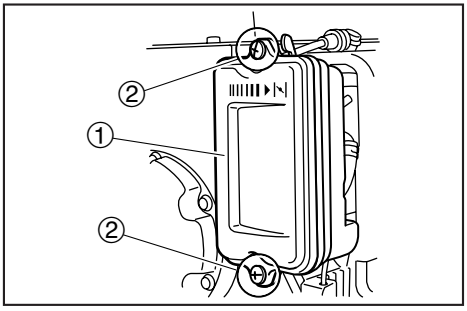
要　点

- ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。

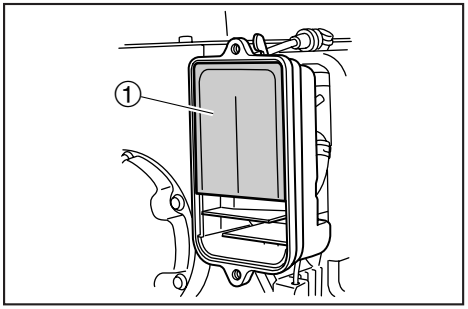


2. エアクリーナカバー①を固定しているボルト②を外します。

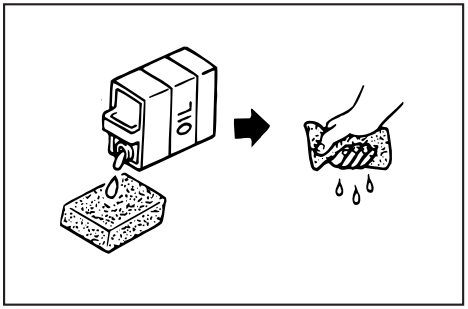


3. エアクリーナカバーを外します。

4. エレメント①を外します。



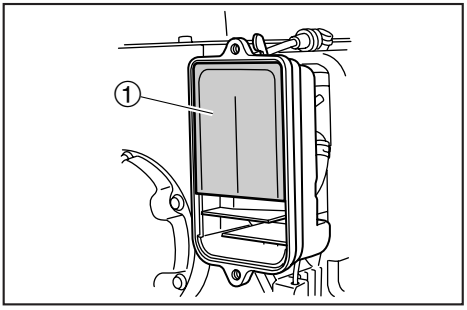
5. エレメントをきれいな洗浄油で洗浄します。
6. エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。



▲注　意

- **エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。**

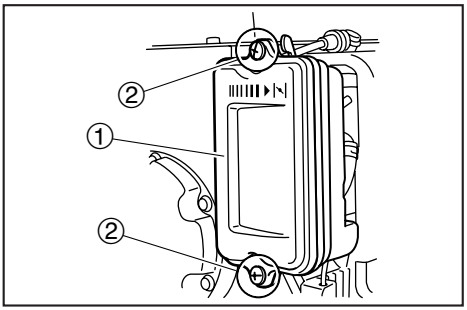
7. エレメント①をエアクリーナ本体にはめ込みます。



⚠注　意

- **エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。**

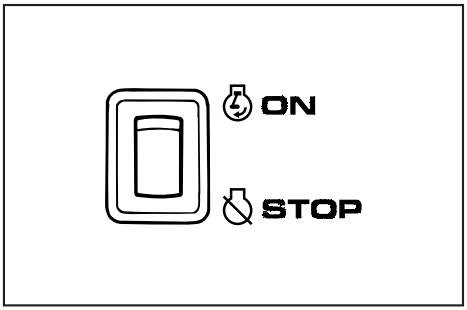
8. エアクリーナカバー①を取り付けボルト②を締め付けます。



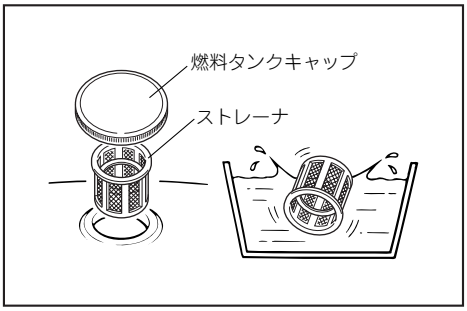
やさしい点検・調整（つづき）

● **燃料タンクフィルタの清掃**

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。

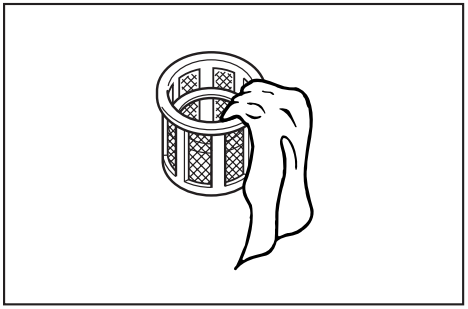


3. 溶剤を使ってストレーナを洗浄します。

要　点

● ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナを拭いて挿入します。



5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠警　告

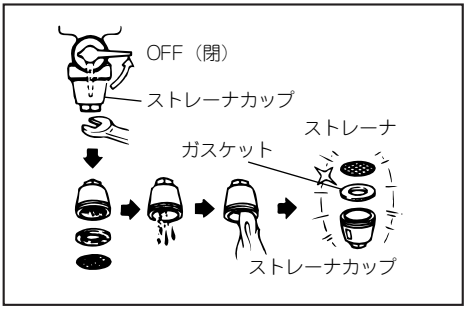
● **燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。**

● **フューエルストレーナの清掃**

要　点

● ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。
ヤマハ販売店にご相談ください。

1. 燃料コックをOFF（閉）にします。



2. ストレーナカップを取り外します。

要　点

● ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。

3. ガスケット、ストレーナを取り外します。
4. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

⚠警　告

● **タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。**

5. ガスケットを点検します。

要　点

● ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

6. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
7. 取付後は燃料漏れがないかを確認します。

⚠警　告

● **取り付けが悪いと燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。**

故障診断（EF7H）

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時はヤマハ販売店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安な時は、できるだけそのままの状態でヤマハ販売店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）
   - 燃料タンクが空になっている……燃料を補給する。
   - 燃料パイプが目詰まりしている……燃料パイプを清掃する。または販売店に相談する。
   - 燃料コックに異物が混入している……燃料コックを清掃する。または販売店に相談する。
   - キャブレタが目詰まりしている……キャブレタを清掃する。または販売店に相談する。
2. 電気系統（火花不足）
   - スパークプラグが汚れている……スパークプラグを乾燥させて清掃する。
   - スパークプラグにカーボンが付着している…カーボンを除去する。
   - 点火系統が不良……販売店に相談する。
3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ）……販売店に相談する。
4. 潤滑系統
   - オイル不足……エンジンオイルを規定量まで補給する。

● 電気が出ない

- 交流プロテクタが作動している……エンジンスイッチをSTOP（停止）にし、エンジンを5分間停止する。交流プロテクタのノブを押してON（入）にする。次にエンジンスイッチをON（運転）にする。リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを再始動する。

故障診断（EF9H）

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時はヤマハ発電機販売店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安な時は、できるだけそのままの状態でヤマハ発電機販売店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）
   - 燃料タンクが空になっている……燃料を補給する。
   - 燃料パイプが目詰まりしている……燃料パイプを清掃する。または販売店に相談する。
   - 燃料コックに異物が混入している……燃料コックを清掃する。または販売店に相談する。
   - キャブレタが目詰まりしている……キャブレタを清掃する。または販売店に相談する。
2. 電気系統（火花不足）
   - スパークプラグが汚れている……スパークプラグを乾燥させて清掃する。
   - スパークプラグにカーボンが付着している…カーボンを除去する。
   - 点火系統が不良……販売店に相談する。
3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ）……販売店に相談する。
4. 潤滑系統
   - オイル不足……エンジンオイルを規定量まで補給する。

● 電気が出ない

- 交流もしくは直流プロテクタが作動している…エンジンスイッチをSTOP（停止）にし、エンジンを5分間停止する。交流もしくは直流プロテクタのノブを押してON（入）にする。次にエンジンスイッチをON（運転）にする。リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを再始動する。

運搬

発電機を自動車・トラック等の車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

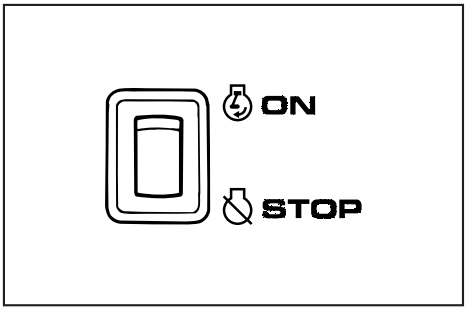
⚠警　告

- **振動、衝撃等で燃料タンクの燃料（ガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料（ガソリン）が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランク等に積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料（ガソリン）は鉄製の携帯タンクに保管してください。**

⚠注　意

- **発電機の上に重い物を置かないでください。**

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。

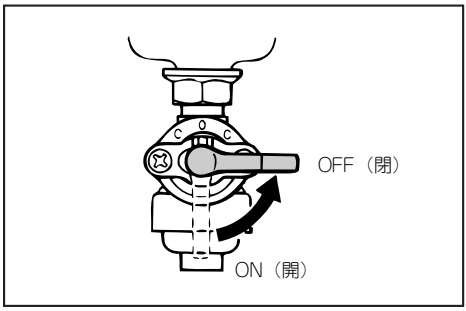


2. 燃料タンク内の燃料（ガソリン）を抜きます。

要　点

- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

3. 燃料コックをOFF（閉）にします。



4. 発電機をロープ等で確実に固定します。

要　点

- 発電機が移動、転倒、落下、破損等しないような位置に積載してください。

保管・格納

● **保管**

使用後、または定期運転後次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～11の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えてください。

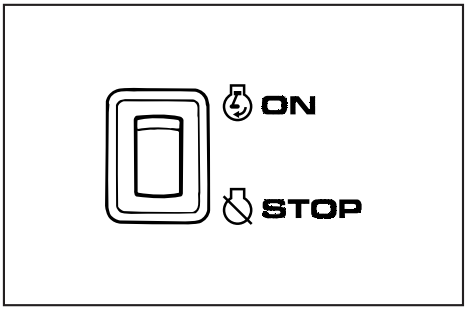
⚠注　意

- **燃料が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。**

要　点

- 排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。

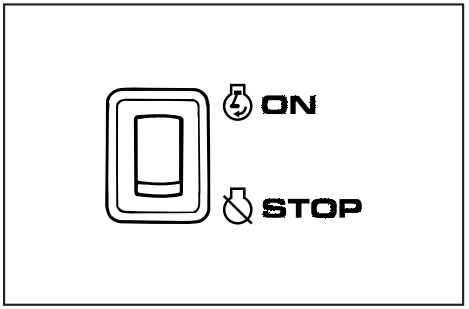


2. 燃料タンクキャップ、燃料タンクストレーナを外します。燃料（無鉛ガソリン）を抜きます。

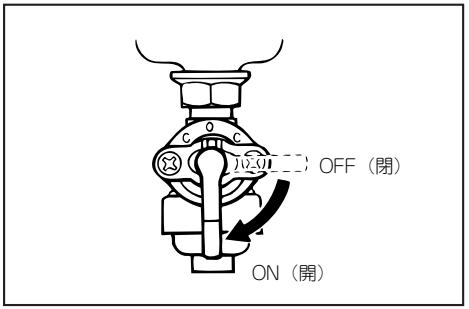
⚠注　意

- **こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

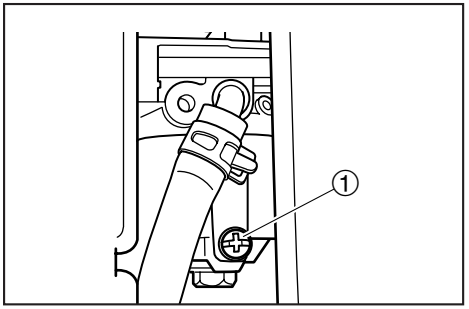
3. エンジンスイッチをON（運転）にします。



4. 燃料コックのレバーをOFF（閉）からON（開）にします。



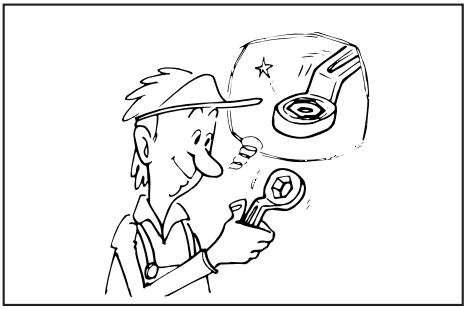
5. エンジンを始動します。
   数分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。
6. キャブレタのドレンスクリュ①をドライバ⊕で弛めて燃料を抜きます。



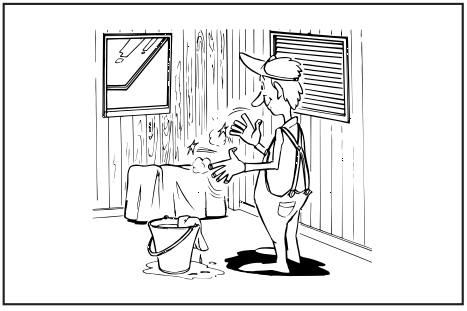
⚠注　意

- **こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

7. 組み付けは分解の逆順で行ないます。
8. エンジンスイッチをSTOP（停止）、燃料コックをOFF（閉）にします。
9. キャブレタのドレンスクリュをドライバ⊕で締め付けます。
10. ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。



11. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

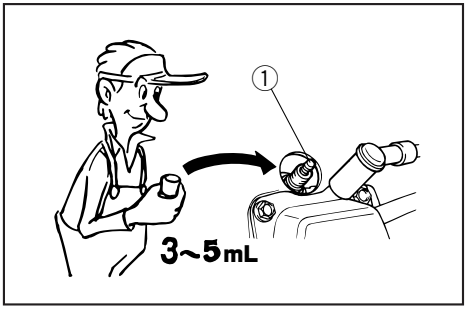


保管・格納（つづき）

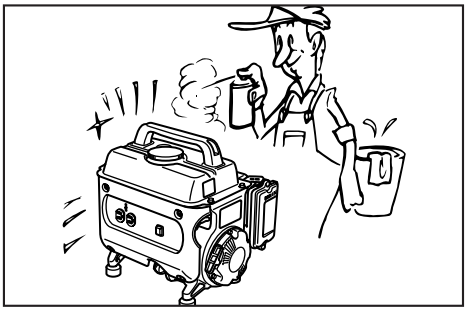
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する時に備えてください。

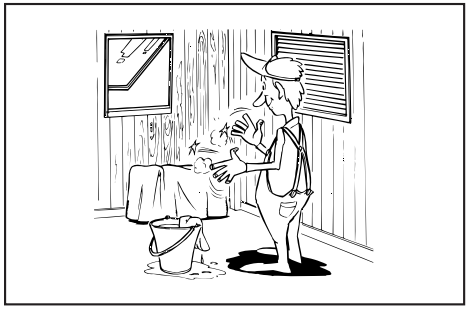
1. 保管項目の1～10の作業を行ないます。
2. スパークプラグ①をはずしプラグ孔よりエンジンオイルを3～5mL給油します。



3. スタータロープを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
4. スタータロープを引き重くなった状態（圧縮状態）にします。
5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。



仕様諸元

名称			EF7H
形式			2極回転界磁形
電圧調整方式			コンデンサ補償式
励磁方式			自己励磁式
力率			1.0
電圧変動率（整定）			10%以下
周波数変動率（整定）			5%以下
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz
		定格出力	610VA/710VA
		定格電圧	100V
		定格電流	6.1A/7.1A
	直流	定格電圧	無
		定格電流	無
装備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント		2
	交流過電流保護装置		プロテクタ
	直流コンセント		無
	直流過電流保護装置		無
エンジン	エンジン種類		空冷 4 サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		遠心重錘式
	冷却方式		強制空冷式
	点火方式		CDI
	スパークプラグ		NGK・BPR6HS
	プラグギャップ		0.6～0.7㎜
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		84mL（84㎤）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル（SAE 10W-30もしくは10W-40）
	使用潤滑油容量		430mL（430㎤）
	始動方式		リコイル式
燃料タンク容量（赤レベル）			2.7L
連続運転時間（赤レベル）			約6時間/約5.5時間
乾燥重量			23㎏
全長×全幅×全高			399×305×410㎜
騒音レベル（7m）			60dB（A）/62dB（A）
バッテリ			無
			無

• この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

仕様諸元

名称			EF9H
形式			2極回転界磁形
電圧調整方式			コンデンサ補償式
励磁方式			自己励磁式
力率			1.0
電圧変動率（整定）			10%以下
周波数変動率（整定）			5%以下
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz
		定格出力	700VA/850VA
		定格電圧	100V
		定格電流	7A/8.5A
	直流	定格電圧	12V
		定格電流	8A
装備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント数		2個
	交流過電流保護装置		プロテクタ
	直流コンセント数		1個
	直流過電流保護装置		プロテクタ
エンジン	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		遠心重錘式
	冷却方式		強制空冷式
	点火方式		CDI点火
	スパークプラグ		NGK・BPR6HS
	プラグギャップ		0.6〜0.7㎜
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		84mL（84㎤）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル（SAE 10W-30もしくは10W-40）
	使用潤滑油容量		430mL（430㎤）
	始動方式		リコイル式
燃料タンク容量（赤レベル）			2.7L
連続運転時間（赤レベル）			約5.5時間/約4.5時間
乾燥重量			23㎏
全長×全幅×全高			399×305×410㎜
騒音レベル（7m）			61dB（A）/63dB（A）
バッテリ			無
			無

• この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

索引

記号

⚠警告 ……3
⚠警告シンボルマーク ……表紙裏(表2)
⚠警告ラベル ……5
⚠注意 ……4
⚠注意シンボルマーク ……表紙裏(表2)
⚠注意ラベル ……6

あ行

アース端子……9, 11, 16
安全にお使いいただくために……3
運搬……43
エアクリーナ……9, 11
エアクリーナエレメント……9, 11
エアクリーナエレメントの清掃…37
エンジンオイルの給油……18
エンジンオイルの交換……33
エンジンオイルの点検……28
エンジンが始動しない……41, 42
エンジンスイッチ……9, 11, 13
エンジンの始動……19
エンジンの停止……21
オイル警告装置……9, 11, 13
オイルプラグキャップ……9, 11
お客様ご相談窓口のご案内……2
おねがい……表紙裏(表2)

か行

格納……47
各部の取り扱い……13
各部の名称……9, 11
環境への配慮……4
キャブレタ……9, 11
給油……17
携帯工具……16
交流コンセント……9, 11
交流電源の使用可能範囲……24, 25
交流電源の取りだし方……21
交流プロテクタ……9, 11, 14
故障診断……41, 42

さ行

識別番号ラベル……1
始業点検……27, 29
始業点検項目……30
重要ラベル……5
仕様諸元……49, 50
ストレーナカップ……9, 11
スパークプラグ……9, 11
スパークプラグキャップ……9, 11
スパークプラグの点検と清掃……35
スパークプラグレンチ……9, 11
整備ご相談窓口のご案内……32
その他の点検……28
その他ラベル……6, 7, 8

た行

正しい運転操作……19
直流電流の使用可能範囲……23
直流電源の取りだし方……22
直流プロテクタ……11, 14
直流コンセント……11
チョークレバー……9, 11, 15
定期運転……31
定期交換……31
定期点検……29
定期点検ご相談窓口のご案内……32
電気が出ない……41, 42
点検……29
ドレンスクリュ……9, 11

な行

燃料コック ……9, 11, 15
燃料タンク……9, 11
燃料タンクキャップ……9, 11
燃料タンクフィルタの清掃……39
燃料（無鉛ガソリン）の給油……17
燃料（無鉛ガソリン）の点検……27

は行

ハンドル……9, 11
バッテリ充電の際の厳守事項……23
フューエルストレーナの清掃……40
保管……45
本体識別番号……1

ま行

マフラ……9, 11

や行

やさしい点検・調整……33
要点シンボルマーク……表紙裏(表2)

ら行

リコイルスタータハンドル……9, 11, 16

数字

6ヶ月毎点検項目 ……30
12ヶ月毎点検項目 ……30

YAMAHA
ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
〒436-0085 静岡県掛川市成滝322-1
TEL 0537(21)2679
2007.01×1